

## 式 辞

本日ここに、戦没者の御遺族並びに白土幸仁埼玉県議会議長をはじめ、埼玉県議会議員、市町村長の皆様など、多くの方々の御列席を賜り、埼玉県戦没者追悼式を挙行するに当たり、謹んで哀悼の誠<sup>まこと</sup>を捧げます。

先の大戦が終結し、今年で八十年になります。この間、我が国は戦争がもたらした悲しみと苦しみを乗り越え、世界でも有数の繁栄と、平和な社会を築き上げてきました。私たちの郷土埼玉も、豊かな自然と、都市のにぎわいを兼ね備えた可能性あふれる県として、七三三万県民と共に、力強く発展を続けております。

しかし、世界の一部の地域では、今もなお、戦争や紛争が続き、多くの人命が犠牲となっています。戦争は、遠い過去の出来事ではなく、私たちが生きる現代においても、日々、苦しみと悲しみを生み出しています。

今日の我が国では、平和な日常が当たり前のようになっています。この基礎には、祖国の安寧<sup>あんねい</sup>には、家族を案じながら、

かけがえのない命を犠牲にされた多くの戦没者がおられます。このことを、私たちは深く胸に刻まなければなりません。また、深い悲しみを抱えながら懸命に努力された戦没者御遺族の皆様の御苦労も忘れてはなりません。

戦争で犠牲となつた全ての方々の御冥福を心からお祈りいたしますとともに、これまで幾多の苦難を乗り越えられた御遺族の皆様に心からの敬意を表します。

国民の多くが戦争を知らない世代となつた今、全国各地で戦争を語り、次世代へ継承する事業が多く行われています。言葉や映像で戦争がもたらす悲惨さや悲しみを伝えることは、平和を継承していく上で欠かせないものです。

享受する平和を守り、次の世代へ引き継ぐことは、いかに難しくとも、今を生きる私たちの責務であります。

私は、犠牲となつた戦没者に改めて思いを致し、未来に向け、この平和な社会を守り、つなげていくことに全力を尽くしますことを、ここに固くお誓い申し上げます。

結びに、御靈(みたま)のどこしえに安らかならんことを心から  
お祈り申し上げますとともに、御遺族並びに御参列の皆様の御多  
幸を祈念申し上げまして、式辞とさせていただきます。

令和七年十月十一日

埼玉県知事 大野 元裕